



한청통신

韓 青 通 信

2009 年 9 月号

今号のラインナップ：8.15 光復節 64 周年の集い報告 / サマーキャンプ 2009 報告 / サマーキャンプ
参加者感想文 / 情勢 NEWS / 支部紹介「日々是はんちょんー広島県本部」 / 今
後の予定 / 編集後記

全国各地で民生・民主・平和・統一を叫ぶ！



韓青は韓統連とともに、8月15日から23日にかけて、全国各地（東京・横浜・四日市・京都・大阪・神戸・広島）で「八・一五光復節六十四周年 第二期百日間運動を完遂し、民生・民主・平和・統一を実現しよう！在日同胞の集い」を開催し、多くの同胞青年が集いました。

集いでは、まず統一機運を盛り上げる統一マダン東京や国内民衆の運動、そしてサンヨン自動車労組への弾圧をはじめとした国内の厳しい現状などの映像上映がありました。

次に韓統連中央からの講師による情勢講演が行われ、クリントン元大統領の訪朝を契機に朝米関係が対決局面から対話局面へ転換する兆しが見えた情勢を学習するとともに、今、私たちがダイナミックに活動し、社会に対して声をあげていくことがどれだけ重要であるかを再確認しました。

各地とも集いの最後には決議文を拍手で確認し、

一日も早い祖国統一の願いを込めて、署名をおこないました。

集いの前後には、各地ともに街頭に繰り出し、李明博政権の強硬一辺倒な政策への反対や、朝日国交正常化のメッセージを、サムルノリを披露するなど創意工夫あふれる宣伝活動で町行く人に伝えました。暑い中で大変でしたが、一生懸命私たちの思いを伝えることで多くの方に私たちのメッセージを伝えることのできた、とても意義深い宣伝活動となりました。

恒例の交流会では、集いと宣伝活動の成果を確認し、今後もみな一丸となって、前進していくことを誓いました。

韓青がいつそう強い団結力を持ち、民生・民主・平和・統一を実現することを誓うことの出来た素晴らしい集いとなりました。



Summer Camp 2009 特集

—第43回韓青全国夏期講習会—



韓青では7月下旬から8月上旬にかけて、「統一新時代！民族とともに！祖国とともに！」をテーマに「サマーキャンプ2009 - 第43回韓青全国統一夏期講習会」を全国各地で開催しました。東日本は千葉県・岩井海水浴場、中日本は愛知県・知多半島、西日本は岡山県・渋川海水浴場に多くの在日同胞青年が集い、民族と祖国を全身で感じる3日間を過ごしました。

今回のサマーキャンプは3地域での開催で、それぞれの地域の若いメンバーが企画段階から主体的に参加して内容を作りながら、各地域の特色をいかしたキャンプになりました。東日本では、「ともに民族的に生きよう」と題して講演がありました。また直後に迫っていた統一マダン東京に展示するオリジナル統一旗の作成もおこない、参加者は楽しみながら統一への思いを形にしていきました。



中日本では、名前や国籍、祖国の統一と分断などをテーマにディベート企画をおこない、活発な討論が展開されました。ディベート形式で行なうことによって、普段とは違う角度から自分の考えを整理できたという意見が多々あり、好評を博したようです。

西日本では参加者全員での飯ごう炊さんや民族文化体験など、多彩なプログラムで民族マダンを満喫しました。そして「自分の携帯電話のアドレス帳にどれだけ在日同胞がいるのか」「名前はどうか」など身近な例を使って、参加者が日常的に民族とどのくらい関わって生きているのかを考える企画なども行なっていました。

また韓青誕生50周年を来年に控えて、文世賢中央委員長が「韓青50年とわたしたち」と題して記念講演を全国共通で行ないました。1960年に李承晩独裁政権を打倒した4.19革命の熱気を受けて誕生した韓青が歩んできた自主・民主・統一運動の歴史を振り返り、在日同胞青年が「祖国とともに、民族とともに」生きる意味を熱く語りました。参加者たちは韓青の切り拓いてきた在日同胞の歴史にあらためて誇りを感じ、その愛国伝統を自分たちが継承して未来を創っていくという気持ちを確認しました。

各地域とも講演や企画をもとに班別討論を行い、民族的に生きることの意味や相互の理解を深めることができました。一方砂浜では、班対抗のレクリエーションや花火大会などを楽しみ、青年らしく交流を深めていきました。そしてメイン行事である「韓青文化マダン」では各班の寸劇発表、各地域練習を重ねてきた民族文化発表が披露され、参加者たちは民族マダンを体全体で満喫しました。



感想文集

～夏の思い出再び～全国から感想文が届きました～



東日本夏期講習会より 東京本部 足立支部 シン・サンミ

私は今回のサマーキャンプで初めて班長団として参加しました。最初は不安でしたが、やるからにはきちんとやろうと思い、準備では班長とたくさん話し合い、討論でどのようなことを話すべきか、そして最終的にどのようにまとめるべきなのかについて考えました。また、寸劇の構想を練ったりと、短期間の中でいろいろ準備を進めることができ、さらに今回は大人数でサムルノリに挑戦しましたが、これも短期間に集中して練習し、良い状態で当日に臨みました。

サマーキャンプ本番は関東地域のみだったため、とてもアットホームな雰囲気の中行われました。冬期講習会と比べて班の人数が少なかったことで逆にそれぞれの意見をたくさん聞くことができ、民族的に生きることの大切さについて改めて考え、とても有意義な話し合いをすることができました。また、レクも白熱して面白かったし、寸劇も文化発表も大成功で本当に良かったです。毎回のことですが、文化マダンの最後の群舞は特に盛り上がりました。皆で輪になって踊ると、民族の血が騒ぎ、すごく楽しくて、在日韓国人に生まれて本当によかったなと思うことができます。あっという間の2泊3日でしたが、とても充実したキャンプになりました。これからもさまざまな行事や活動に参加していきたいと思います。



中日本夏期講習会より 愛知県本部 ワン・ソヘ

先日、サマーキャンプの写真が家に届いたのでまた出してみてみた。あれからもうすぐ1か月たつのか、、、、はやいなあ。1日のみの参加だったので、あっというまに過ぎたけど、大きな1日になったように思う。

参加する前まで韓青という言葉は軽く聞いたことがあるぐらいで、どんなことやってるのか、まったく知らずにいた。会場に着いたらまず驚いた。「なんか若い集団だな」と。そりゃ、青年ってつくから若いんだろな、なんて思ったり。次にみんなが胸につけている名札をみて、「どうしよう」と。ハングルがまったくわからない！自分の名前も書いたこともないし。考えると自分の名前が書けないって、、、、なんか急に恥ずかしくなった。あれからはなんとか書けるようになったけど。

日本で生まれ育ったのに、どうしてこんなに国籍が重くのしかかるのかという悩みが常にあった。日本人でいいじゃない、って。だったら小さい時からもっとなんとかしてくれたらよかったのにつて自分勝手だけど親に言いたくなかった。思春期に突然勉強しろなんて言われても、自分なりに学業、部活に忙しいって思い込んでたし、恋愛もしたかったし。ここ数年前まで言葉も文化も歴史もまったく

覚える気もなく、なにかと理由をつくって逃げていたように思う。そんな気持ちが頭でグルグルしながら講演を聞いていた。「在日を楽しむ」「受け入れる」この2つがなんだか私にはきついなあ、と。せっきくの歴史の話や鍵の話、色々深い講演だったのにこの2つがズシッとのかかってきた。

その後の討論会はすごいなあの一言に尽きる、私より若い青年たちがしっかりと意見を伝えていくし、おそらく年上であろう世代の方たちも豊富な言葉や会話力でどんどん進んでいく。そのときの自分の脳裏には「在日を楽しむって?」、..、それしかなかった。

引きずる性格だからかレクリエーションでも、やっぱり頭からはなれない。そしてやってきた班別寸劇でのオモニの役。お酒もないのになにかを演じることができるのかと不安だったけど、オモニの泣きたい気持ちと私の泣きたい気持ち。中身は違うけれど、普段の自分を忘れてできたのは、2つの気持ちがフュージョンしたのかなあなんて思う。

プンムルをみたり歌を聴く..、初めてだらけだったけど、抵抗なくなんだか自然に受け入れられたし、純粋な楽しい気持ちがでていたと思う。みんなほんとに楽しんでる！自分もその輪の中に入れたのかな、一緒に踊ってまわる..、酔いがなくても私こんなこともできるじゃんって驚いた。同胞っていいなって思った。

今までは自分の周りに韓国人はなかなかいなかったのもあってか、すべてが新鮮で心の底から参加できてよかったと。そして、みんなが気軽に話かけてきてくれたことが、ただただうれしくて。在日であることを受け入れること、少し一歩踏み出せたように思う。でも楽しむことはまだ先の話だろう。まず今、自分がやっていくことは思春期の後悔を胸にウリマルの勉強に励むこと。今はやろうって素直に思える。

何回も言うけど、参加できてよかったなあ。

キャンプで出会った青年たちとまた会う機会はきっと訪れるだろうから、その時までには少しでも自分が変わったらいいなと思う。



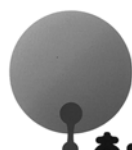
西日本夏期講習会より 広島県本部 イ・ヤンピョン

「民族らしく生きるとは？」これは生き方の選択であり、自身の生き方の模索ではないかと私は思います。つまり、“民族”の誇りを取り戻すことは、“人間としての誇り”を取り戻すことである、と考えます。

私たちがこれほどまでに“民族”について悩み、苦しまなければならないのは、今もなお残る、“民族”に対しての偏見、そして差別をする日本社会の現状があるからでしょう。民族差別と闘うことは、

韓国語教材専門インターネット書店

ハングルの森



Internet Bookstore

한글의 숲

<http://www.rakuten.co.jp/eac-hg/>

来年の50周年事業を楽しみにしています。

金利明

民族の誇りの回復のためだと良く聞きます。しかし、実際に民族差別において、“民族”自体が蔑まれているのか。実はそうではなく、本質的には“民族”を口実に蔑まれ、踏みにじられているのは、私たちの“人間としての尊厳”であると考えます。私たちが在日が目指すべきは人間としての誇りや尊厳、そして、アイデンティティへの自由（在日であると自由に名乗れて生きていける権利）の回復であるとは私は考えます。



私は在日であることが嫌だとかは全くありません。むしろ在日であることを嬉しく思います。在日でなければこういう視点から物事を捉えることはなかっただろうし、多くの素晴らしい人たちに会えることもなかったと思います。

今後の私自身の個人的な活動は、「日本と韓国のダブル、日本籍で日本名（ヤマムラ・ヨウヘイ）がありながら社会生活は民族名（イ・ヤンピョン）で生きていくこと」であります。

差別の原因は、“する側”に原因があり、その原因の多くは“される側”についての知識の無さ、つまり“知らない”から差別するのだと考えます。そういった“する側”へ、私たち“される側”のことを知らしめることが、私たちの尊厳を回復するための一歩だと思います。李陽平（リ・ヤンピョン）と名乗り、生きていくこと、それが私の活動であり、文世賢委員長が全体講演で言われていた“闘い”でもあります。民族名を名乗ることがすべてではなく、名乗ることは手段の一つであり、目的ではないということです。無論、目的とすべきは、私たち“人間の尊厳の回復”です。民族名を名乗らなくても、その立場として“する側”に対して“闘う”ことはもちろん出来ます。特に私を始め、ダブルの人間にとっては、民族名も日本名もどちらも私の名前であることには変わりありませんし、どちらが本当の名前なのかも分かりません。（民族名を呼ばれることで在日のアイデンティティを確立できる側面はありますが）しかし、肝心なのは、『自分がどの立場でどのように闘っていくのか、そしてどのように自分の生き方を求めていくのか』であり、これが私たち三日や四世にとって今、最も重要なことではないでしょうか。

それが「民族らしく生きる」つまり、“人間の尊厳の回復”に繋がると信じています。過去の同化政策が今もなお残り、更には同化されていることも気付けない在日もある今、私たち三日や四世、更には次の世代にとっての大きな課題だと思います。

それぞれの立場にはそれぞれの闘い方があり、その立場を選んだのなら、私たちはその立場として生きていくしかないのです。それを決定するのも私たち一人ひとりなんです。

在日であることを恐れず、在日として生まれてきたことを誇り、そして主体的に生き、人としての尊厳を取り戻せるよう、みんなで支え合っていきましょう！！

韓青大阪OB

呉 佑 見

賛助広告を募集しています！

50mm×90mmのスペースに賛助広告を出していただける方を募集しています。詳細は直接お問い合わせください。

●韓青中央「韓青通信」編集部

TEL. 0120-734-101



情勢NEWS

＜動き出した朝米関係と南北関係＞

クリントン元米大統領が電撃的に北朝鮮を訪問し、金正日国防委員長と会談しました。米国と北朝鮮の最高位級の直接対話で、極度に緊張が高まっていた朝鮮半島情勢は、対決局面から対話と交渉局面に移行する転換点が作られました。この会談が南北対話をも導き出したことを考えると、かなり大きな転換点と言えるでしょう。

核の拡散を防ぎたいアメリカと、2012年の「強盛大国の大門を開く年」に向けた経済建設に拍車をかけた北朝鮮の「利害の一致」が今回の交渉局面を作り出したと言えます。クリントン国務長官は7月22日、アセアン地域フォーラムで「包括的パッケージ」について「朝米関係の正常化、平和協定の締結、経済・エネルギー支援などが含まれる」と発言しました。しかし、これはすでに6者協議の9・19共同声明にも示されているものです。核心的問題は、その履行＝同時行動原則をいかに進めるかなのです。

6者協議で確認された「行動対行動」の同時行動原則で言うと、北朝鮮は核を放棄し、5カ国は北朝鮮に経済支援をし、米国は北朝鮮と国交正常化をすることが約束されていました。しかし、履行を進めていた北朝鮮に対し、米国は第3段階での合意だった検証を第2段階で執拗に要求し、6者協議を破綻させたのです。それに対し、北朝鮮は核実験で対応し、対北政策の定まっていなかったオバマ新政権は、国際的な世論、特に韓日の目を気にして制裁外交を行なっています。朝米は朝鮮戦争の交戦当事国であり、その一方が相手にだけ一方的に武装解除を要求しても国交正常化は実現しません。北朝鮮は核放棄をする意志を示しているのだから、オバマ米政権は緊張を高め悪循環を繰り返す制裁外交をやめ、対話と交渉を通じて朝鮮半島全体の非核化を目指す道を選択すべきであり、またそうせざるを得ないでしょう。



クリントン元大統領の訪朝によって南北の対決局面も劇的に流れが変わり、対話局面に入りました。北側は、朝米協議とそれに基づく具体的措置に対する李明博政権の横槍や妨害を最小化するために、民間次元の交流協力を活性化させる措置をとりました。現代グループの玄貞恩会長が金正日総書記と会談し、5項目の共同報道文を発表しましたが、これは現代グループが単独でなし得ることではなく、やはり韓国政府の消極的ではあれ支持があったことでしょう。つまり、朝米の対話が行なわれ、李明博政権も南北関係を進めないといけなくなったという変化の現われなのです。オバマ政権は現代グループが合意した金剛山や開城での観光事業の再開・開城工業団地の活性化について、「国連安全保障理事会の対北制裁決議には抵触しない」と明らかにしました。これは実質的な制裁の解除であり、李政権に対するオバマ政権の南北交流・協力の督促だともいえます。

李政権は朝米が対話と交渉に動き出しているにもかかわらず、「非核・開放・3000」に固執して、ますます朝米の平和協定の締結・国交正常化の障害物となっています。李明博政権は民族共同の繁栄と平和統一のために対話し、今回の5項目の合意を進めることで、6・15共同宣言、10・4宣言の履行を態度で示す必要があります。私たちは李明博政権に一層の政策転換を求めています。

日々是はんちゃん 全国支部紹介

Vol.8 広島県本部

韓青通信をご覧の皆様アンニョンハセヨ？今回は、広島県本部の紹介をさせていただきます。にぎやかな広島県本部の様子を想像しながらご覧になってください。

韓青広島県本部は、韓青全国から見れば、最西端に位置する県本部です。本部事務所は広島駅のおとなり、横川駅のほど近くにあります。原爆ドームから自転車で、15分くらいのところあると言った方が、分かりやすいでしょうか？

☆最近の広島県本部は・・・



最近の広島県本部は、全国的に開催されている韓青史学習会をメインに展開しています。通常、「学習会⇒飲み会」のパターンで開催していますが、仕事の関係上、飲み会からの参加というメンバーもおりますので、「(それなりに?) 学習会⇒(盛大に) 飲み会」ということも多々あります。

先日の8・15広島大会でも、ビアガーデン会場にみんなが集結して、広島先輩方と有意義な交流を図ることができました。

今後は、ウリマル学習のほかに、来年の冬期講習会に向けて楽器なども(それなりに…いや、盛大に)展開していきたいと思います。

☆広島県本部に集う仲間たち

広島県本部に集う仲間は、ヤングでフレッシュな仲間(アラウンドはたち)と私を筆頭にアラサー？な仲間たちで構成されています。

今後の目論見としては、若いメンバーと年寄り(?)なメンバーも、かつてのV6のように、互いを切磋琢磨しながら、広島在住の同胞青年にとってのアイドルになれるようがんばって行きたいと思っています。

緩やかな韓青広島県本部ではありますが、いつまでもアットホームな民族のマダンであり続けることを胸に、韓青全国のみなさんと共に歩んでいきたいと思っています。

炭火焼肉・韓国酒家 ビヤンド

<http://www.biyangdo.com> ～飛楊鳥～

〒108-0014 港区芝 5-22-6 TEL 03-3453-2383

☆ご宴会・ご会合に2・3Fのお座敷をご利用ください
(各階40名様まで)

焼肉 晩 翠

ばんすい

〒108-0014 東京都港区芝 5-23-10
TEL & FAX 3452-0061

◎第2期100日間運動 ～各地で講演会やシンポジウムを開催！！～

朝米関係が対話局面に移行し、南北関係も関係改善へと動き出し、日本でも政権交代が実現するという情勢のもとで、李明博政権の強圧政治に反対し、民生・民主・平和・統一を求める韓国民衆の闘いは非常に大きな高まりと広がりを見せています。こうした状況を日本で多くの方と共有するために、韓国ゲストを招いた講演会やシンポジウムが準備されています。韓青も積極的に参加していきます。

東京	「10・3日韓シンポジウム 韓国の民主と人権、朝鮮半島の平和と統一を求め！」 10月3日（土）午後6時～（文京区民センター）
名古屋	「10・4宣言2周年記念講演会 韓国の民主と人権、朝鮮半島の平和と統一を求めて！」 10月4日（日）午後2時～（愛知県青年会館）
大阪	「10・4韓国の民主と人権、朝鮮半島の平和と統一を求める関西の集い」 10月4日（日）午後1時30分～（山西福祉記念会館）

◎その他の行事

○統一マダン神戸

日時：9月27日（日） 11時～17時（雨天決行） 場所：JR 新長田駅前広場

○民族楽器ワークショップ！！（関西合同企画）

※韓国で活躍されている民族楽器のプロ集団“ソリキョル”をお呼びして、合宿をおこないます。

日程：10月24日（土）～25日（日）

場所：尼崎周辺の会館 費用：上級2000円 初級1000円

○韓青東京本部 第11期定期大会

日時：11月1日（日） 午後1時30分～ 場所：文京区民センター（2A）

PICK UP!

○第16回統一マダン東京《8/9（日）東京・荒川区三河島》

韓青東京がサムルノリやカヤグムなどで大活躍する中で、韓国ゲストのクオン・ヘヒョさんとキム・ウオンジュンさん、そして朴保バンドのステージは迫力満点でした。豪雨にヒヤッともしましたが、大勢の方々のご協力でも今年も無事に大成功に終わりました。

○スポーツ大会《9/6（日）大阪・扇町公園》

秋晴れの青い空の下、韓青近畿地協から選出された実行委員の進行の下、タッチフット、ドッジボール、借り物リレーなど、老若(?)男女関係なく楽しめるプログラムを汗水流して熱中し、どっぷり交流することが出来ました。

編・集・後・記



夏の海を満喫してきました。いやあ、岡山の海は青かった。。。と思いきや、クリントン訪朝に始まり、金大中前大統領の逝去、南北関係の再開など、この夏はまさに激動の夏となりました。一連の大きな変化に驚きつつ、やはりウリ民族が積み重ねてきた6.15時代はそう簡単に覆らないんだなあ、と改めて感じました。もうすぐ今年最後のマダン、統一マダン神戸です。秋本番！がんばります！